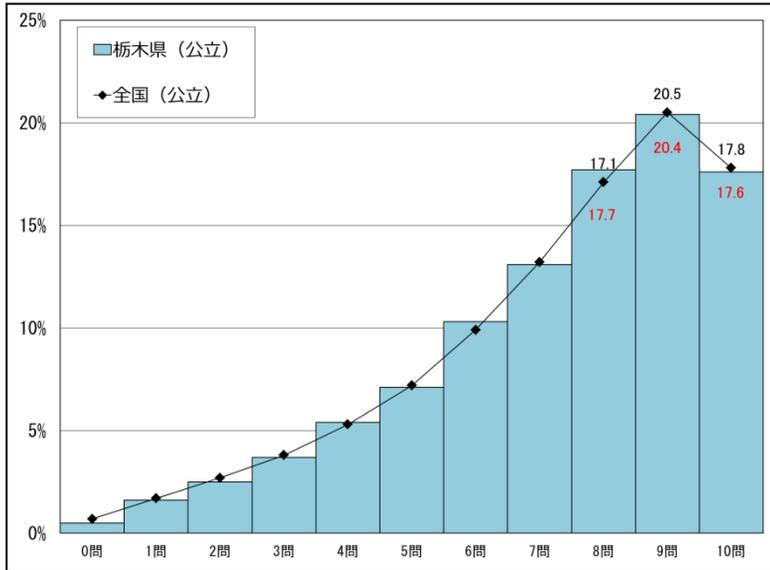


③ 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

〈問題形式ごとの平均正答率〉（％）



	選択式 (6問)	短答式 (1問)	記述式 (3問)
栃木	73.3	57.0	77.7
全国（公立）	73.6	56.8	76.5
*全国との差	-0.3	0.2	1.2

正答数分布グラフから、正答数の少ない生徒の割合が、全国（公立）に比べて少ないことがわかります。

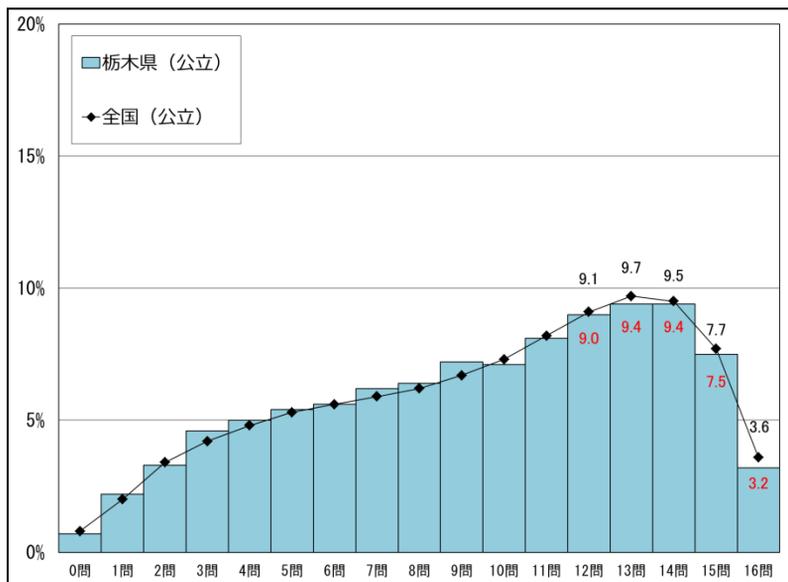
問題形式ごとの平均正答率については、選択式問題において、全国（公立）を下回っていることがわかります。

〈設問別正答率〉

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率		無解答率					
		話す聞く	書く	読む	伝達	関心	話す聞く	書く	読む	知識技能	選択	短答	記述	栃木県 (%)	全国との差	栃木県 (%)				
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する			2 ウ										64.0	0.1	0.1				
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する			1 イ										60.6	-0.9	0.0				
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く			1 オ				○				○		92.1	0.9	1.3				
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く							1(2) ア					○		○	57.0	0.2	5.0		
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	1 オ													○	80.6	0.2	0.1		
2二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	1 ウ													○	69.6	-0.1	0.2		
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	1 オ													○	61.3	0.9	8.1		
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する		2 エ													○	87.5	0.1	0.3	
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える		1 ウ												○	79.9	2.1	6.8		
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する															○	○	77.2	-1.5	1.3

④ 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



〈問題形式ごとの平均正答率〉 (%)

	選択式 (5問)	短答式 (7問)	記述式 (4問)
栃木	60.2	65.8	46.1
全国 (公立)	60.3	66.6	47.1
* 全国との差	-0.1	-0.8	-1.0

正答数分布グラフから、正答数が13問以上の生徒の割合が、全国（公立）に比べて少ないことが分かります。

問題形式ごとの平均正答率については、記述式問題において、全国（公立）を1.0ポイント下回っていることが分かります。

〈設問別正答率〉

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率 栃木県 (%)
		数と式	図形	関数	資料の活用	関心	考え方	技能	知識理解	選択	短答	記述	栃木県 (%)	全国との差		
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	1(1) ア							○	○			59.4	-2.8	0.1	
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	2(2) ウ							○		○		68.0	-2.1	5.0	
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める		1(1) イ						○		○		83.2	-0.4	0.6	
4	反比例の表から式を求める			1(1) エ						○		○	50.7	1.8	8.6	
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める				2(1) ア					○		○	70.4	-2.4	3.9	
6 (1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ		2(1) イ、エ							○			38.5	-0.3	0.2	
6 (2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する		2(1) イ、エ							○			31.6	-3.1	9.9	
7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	2(2) ア									○	○	75.0	-0.8	5.0	
7 (2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	2(2) イ								○	○		77.5	0.3	0.3	
7 (3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	2(2) ウ							○			○	53.4	0.1	17.1	
8 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める				1(1) ア						○	○	56.0	-1.9	11.3	
8 (2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する				1(1) イ					○		○	38.8	-2.0	21.3	
8 (3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ				1(1) ア、イ						○		55.5	1.9	0.8	
9 (1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	2(1) イ、ウ								○			57.6	0.2	8.8	
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	2(1) イ、ウ								○		○	60.7	1.0	16.2	
9 (3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	2(1) イ、ウ								○		○	69.9	0.3	1.8	

【中学校数学 1】

出題の趣旨：四則計算の可能性について考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 四則計算の結果の特徴を的確に捉えること
- ・ 数の集合と四則計算の可能性について理解していること

平均正答率 県 59.4% (全国 62.2%)

1 a と b が正の整数のとき、下のアからエまでの計算のうち、計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。正しいものをすべて選びなさい。

ア $a + b$

イ $a - b$

ウ $a \times b$

エ $a \div b$

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

- 誤答である「イ」と解答している生徒の反応率が16.8%である。このように解答した生徒は、符号と数の両方に着目できず、符号だけに着目して解答したことが考えられる。
- 「ア、ウ」など「ア」を含む解答がみられた解答類型の反応率が16.3%である。このように解答した生徒は、「正の整数」を「正」と「整数」に分けて考えずに、「整数」だけに着目して解答したことが考えられる。

＜今後の指導に当たっては＞

- 四則計算の可能性について考察する場面では、数の範囲を正の数と負の数にまで拡張し、四則計算の結果の特徴について、数の集合と関連付けて捉えることが大切である。
授業においては、まず自然数について、具体的な自然数を代入して四則計算する場面を設定することにより、計算結果が自然数にならない場合があることに気付かせ、生徒自身が数と集合の四則計算の可能性について捉えることができるようにする必要がある。その後、数の範囲を整数や分数にまで広げて同様の考察を行わせ、数の概念の理解を深めていけるようにするなどの工夫が考えられる。

【中学校数学 8 (2)】

出題の趣旨：資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

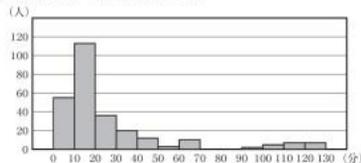
平均正答率 県 38.8% (全国 40.8%)

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」

桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

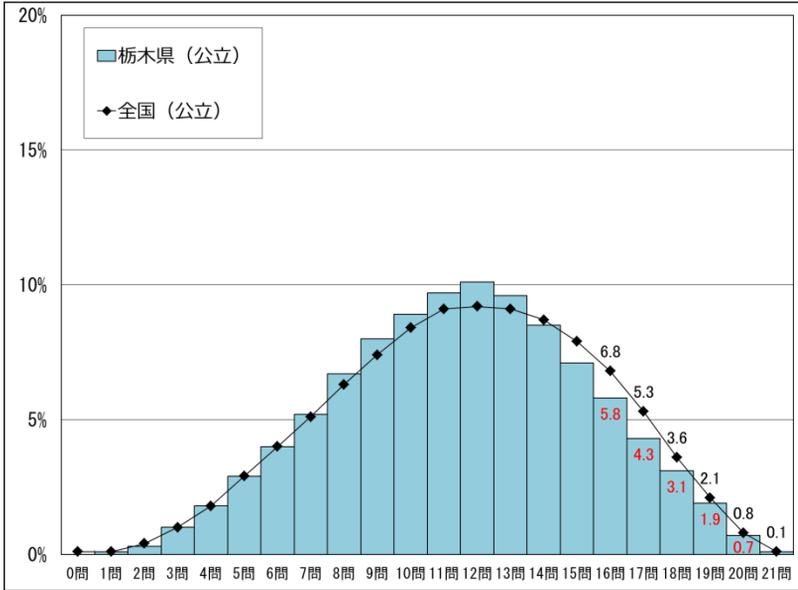
- 誤答である「10分以上20分未満の階級の度数が大きいことに着目し記述しているが、1日当たりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていないことを表現することができなかった解答」となる類型への反応率が11.6%である。このように解答した生徒は、データの分布と代表値を関連させて傾向を読み取ったり、度数の一番大きい階級に着目したりすることができていないと考えられる。

＜今後の指導に当たっては＞

- 資料の傾向を捉え、批判的に考察し、判断した理由を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切である。
授業においては、代表値を求めたり、データの分布の様子を読み取ったりする活動を取り入れることが考えられる。その際、「どの代表値に着目するのか」、「どの階級に着目するのか」などと教師が問いかけ、着目したところに気付かせることが大切である。さらに、話し合いで出てきたことを整理しまとめした後、どのように表現したらより分かりやすく抜けのない説明になるかを吟味する場面の工夫が考えられる。

⑤ 中学校 英語

〈正答数分布グラフ〉(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)



〈問題形式ごとの平均正答率〉(%)

	選択式 (13問)	短答式 (5問)	記述式 (3問)
栃木	71.4	41.2	7.0
全国(公立)	71.4	45.2	6.8
*全国との差	0.0	-4.0	0.2

正答数分布グラフから、全国(公立)に比べて、正答数の多い生徒の割合が少ないことが分かります。

問題形式ごとの平均正答率については、選択式・記述式問題において、いずれも、全国と同程度であることが分かります。

〈設問別正答率〉

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率
		聞く	話す	読む	書く	関心	表現	理解	知識理解	選択	短答	記述	栃木(%)	全国との差	栃木(%)	
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)							○				91.7	0.6	0.1	
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)							○	○			90.3	1.7	0.1	
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)							○	○			71.4	-0.9	0.1	
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)							○	○			63.3	1.5	0.1	
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	(4)						○		○			74.1	2.3	0.1	
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	(4)						○		○			80.8	-1.2	0.0	
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	(7)						○			○		8.8	1.2	41.3	
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する			(4)					○	○			76.9	-2.5	0.1	
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する			(4)					○	○			72.6	-1.8	0.1	
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する			(4)					○	○			71.6	-1.5	0.3	
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する			(7)				○		○			63.1	0.2	0.3	
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する			(7)				○		○			32.0	-0.8	0.9	
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く			(4)				○			○		10.6	-0.3	28.1	
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する				(7) (4)				○	○			80.9	1.0	0.1	
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する				(7) (4)				○	○			59.0	0.8	0.4	
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く				(7) (4)				○		○		72.3	-1.3	4.5	
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く				(7) (4)				○		○		25.5	-3.4	13.5	
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く				(7) (4)						○		51.2	-2.3	6.8	
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く				(7) (4)						○		25.6	-7.3	10.4	
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く				(7) (4)						○		31.7	-5.7	10.8	
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く				(4)			○			○		1.7	-0.1	8.2	

【中学校英語 8】

出題の趣旨：書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができるかどうかをみる。

平均正答率 県 10.6% (全国 10.9%)

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

○ 誤答である「食料を無駄にすることをやめるために自分ができることを示していない解答」となる類型への反応率が38.8%である。これらは、解決策としての適切さや具体性に欠けており、資料の内容を十分に捉えられていないと考えられる。主な解答例としては、以下のようなものがある。

- 例) ・ I think The World Food Programme is very nice project.
 [感想を述べているだけ]
 ・ We can eat two rice balls.
 [解決策になっていない]

＜今後の指導に当たっては＞

○ 読んだ内容について賛否や感想、自分の考えを示すには、単に内容を理解するだけでなく読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。授業においては、学習活動の見通しをもたせた上で教科書等に取り上げられている環境問題や人権問題に関する説明文などを読み、「自分ができること」等をペアやグループで伝え合った後、英文を書く活動などが考えられる。その際、表現の正確さを高めるために、誤りのポイントをまとめたチェックリストなどを用いて生徒自身が誤りを修正しながら、最終的な自分の意見として書いてまとめていく活動を位置付けることも大切である。

【中学校英語 9 (3)】

出題の趣旨：英語の基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くことができるかどうかをみる。

平均正答率 ①県 51.2% (全国 53.5%) ②県 25.6% (全国 32.9%) ③県 31.7% (全国 37.4%)

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×



＜類型から見られる本県生徒の実態＞

○ ②の設問で、誤答である「与えられた情報に基づいて解答しているが、語や文法事項等に誤りがある解答」となる類型への反応率が26.2%である。このことから、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていない生徒が多いと考えられる。主な解答例としては、以下のようなものがある。

- 例) ・ She is live in Rome.
 ・ She lives Rome.
 ・ She live is Rome.

＜今後の指導に当たっては＞

○ 語や文法の知識は、実際のコミュニケーションの中で活用して情報や考えなどを正確に表現できるようにすることが重要である。授業においては目的や場面、状況のある言語活動を設定し、伝える内容について習得した知識を働かせて思考、判断し表現するような活動を行う必要がある。

どの領域においてもこのような言語活動に継続的に取り組ませ、知識を着実に定着させるとともに、コミュニケーションを図る資質・能力を育成していくことが大切である。